

上岡国夫退職記念号、学会長挨拶

高崎経済大学経済学会学会長 山 崎 益 吉

上岡国夫先生長い間ご苦労様でした。特任教授としてご尽力賜るということですので、さらに「お世話になります」と言わなければなりません。退官が同時に特任教授着任といことになり、すぐに退いてしまわれるのは実に残念であると思っただけに、特任教授としてまたお世話になることはたいへん喜ばしいかぎりです。

上岡先生のご功績はなんとと言っても、附属高校を素晴らしい高校に立ち上げたことにあると考えています。当時、高崎市立であった女子高校を高崎経済大学附属高校にし、形、中身双方において県下に冠たる高校に仕上げた功績は、大いに讃えられねばならないと思います。

何事も端緒は至難ですが、上岡先生は忍耐と先見性によって、もの見事県下でも有数の高校に位置づけた点に敬意を表わさずにはいられません。その陰には、人知れずご苦労がおりであったようですが、そんなことはおくびも出さず、長年取り組まれたことに感謝せずにはいられません。

さらに、上岡先生は教職関係に携わり、将来を担う優れた教員を多数世に送り出し、時代を担う子供、生徒の教育にご尽力いただいていることは、国家の基本が教育にあることを考えるとき、実にいい教育をしていたいているものと、これまた深く感謝せずにはいられません。

学会としては心理学関係の業績の発表をいただき、『高崎経済大学論集』にご尽力いただいた功績に感謝いたします。心理学は人間学ですから上岡先生の人をみる目、学生を指導する心には敬意を表わさずにはおきません。経済学部にあって心理学はなじみのうすいと思われがちですが、けっしてそうではなく経済学を究明するためには心理学、人間学が基礎になければならないでしょうから、上岡先生の心理学、人間学は経済学を根底から支えていると言ってもいい過ぎにはならないように思います。

上岡先生とは教授会でよく隣り合わせて座ることが多くなりましたが、いつもチャレンジ精神で臨まれているその姿に接し、頭が下がる思いがいたします。『大学』にならっていえば「至善」です。上岡先生にはこの言葉が良く当てはまると感心しきりです。その態度は「至善」、「至善」また

「至善」、限りない努力を続けてこれ以上ない極地を追い求めているように私には思えます。第一等を求めて限りなく挑戦している姿は、やはり私たち後輩にとって良いお手本であると思っています。

だが、なんと言っても上岡先生に一貫して流れているのは何事に対処するにも人一倍篤い誠意ではないかと思っています。誠の精神で貫かれた人間性にあるということではないでしょうか。『中庸』に次のような有名な言葉があります。「誠は天の道なり、これを誠にするは人の道なり」（『中庸』）。誠の道を実践することは至難です。どうしても権変功利に走りがちです。天に宝を積む道が取れないからです。天地間の大道を外しがちです。上岡先生の姿を見ていると誠の道をこれでもかこれでもかと、実践しているように思えてなりません。天地間の定理として、誠の道を追究して止まないのではないかと密かにそう思っています。「緡蛮たる黄鳥は、九隅に止」（『大学』）まっているように見えます。上岡先生にぴったりの言葉です。これからも、特任教授として誠の道を貫き、われわれ後輩に本来の道を示し続けて欲しいと思います。

最後になりましたが、今後ますます健康に留意され、人生の先達として、ご指導を賜りますようお願いいたしまして、挨拶に代えさせていただきます。